

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3091500029		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑やまち		
所在地	和歌山県有田市山地44		
自己評価作成日	平成28年3月22日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成28年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを尊重し、その日その時の利用者の変化に対し柔軟に対応することで、安心して生活が送れるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの尊厳を守る為には利用者が自由に行動できることが不可欠であり、そこから生活の喜びが生じるとすべての職員が確信しており、日々理念の実践に事業所全体で取り組んでいる。健康管理や医療の面では、かかりつけ医の往診及び看護師による健康チェックが実施され、本人、家族等にとって不安はない。又地域住民との交流が積極的に行われており、地域に支えられた利用者の生活が実現している。地域交流をより強化する為運営推進会議の有効な活用を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を掲げ“自由・尊厳・歓び”のある生活を送れるよう管理者及び職員は理念を共有し実践に繋げている。	理念は、職員だけでなく利用者や家族等の訪問者が確認できるようにホール等に掲げ、地域の中での利用者の生活を支える基本としている。理念の浸透度は高く、管理者と職員は共有を一層強めながら日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の掃除活動に地域の一員として参加し、また日常的に近隣の方々との交流を図っている。	近隣の方々とは、散歩や買い物時又事業所に来所の際等に挨拶や会話を交わすことで日常的に交流しており、自治会の回覧板を利用者が職員と共に届ける事もある。また事業所の催しへの招待や近隣施設の催しへの参加、各種学校の体験学習の受け入れ等もまた地域交流の格好の機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉系の学校の実習の受け入れを積極的に行い、人材育成に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域交流は図れている。また運営推進会議にて利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等の報告や話し合いを行いサービスの向上に活かしているものの回数は少ない現状である。	運営推進会議には、利用者・家族等や、自治会長、近隣の施設長、行政職員等が出席し、事業所からの報告及び地域の情報をもとに話し合いが行われている。検討した事項(災害への取り組み等)を事業所の活動や運営に活かしている。	出席予定者の個々の都合を把握した上で、余裕を持って日時の連絡、直前の確認を行い定期的に運営推進会議が開催されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、助言を受けたりサービスの質の向上に努めている。	市の介護保険担当者や生活保護担当ケースワーカーとは、役所を訪れた際や事業所への来所時に利用者の暮らしぶりやサービスへの取り組み状況を積極的に伝え助言を得る等、緊密な協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全職員は、自己及び職員相互の確認に加え、研修により再確認し身体拘束とはどのような行為であるのか理解が出来ている。玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる。	代表者及びすべての職員は拘束となる具体的な行為を正しく理解すると共に、言葉による拘束の排除を守り通すことの難しさも認識しており、日々自己点検及び相互確認を行いながら利用者の尊厳を守ることに徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者及び全職員は、自己及び職員相互の確認に加え、研修により再確認し虐待について知識を持ち、利用者への対応に注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当苑利用者に制度対象者が居る。管理者及び職員は日常自立支援事業及び成年後見制度について制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時に利用者及び家族に不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に意見、要望を表せる事業所内及び外部者への表せる窓口を説明するとともに、日々意見、要望が言い易い環境、雰囲気作りに努めている。また苦情マニュアルを作成し迅速に対応が出来る体制を整えている。	事業所が催す花見会や忘年会には利用者だけでなく家族等も参加しており、寛いだ雰囲気の中で意見や要望を表せる機会となっている。又運営推進会議は利用者や家族等が外部者に意見・要望を表せる場でもある。利用者や家族等の感謝の言葉に慢心する事なく、サービスの向上を図る為にも意見・要望の聞き取りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期疫にミーティングを行い、代表者や管理者は、職員の意見を出す機会を設け運営に反映させている。	定期のミーティング以外にも職員は制限なく自由に意見や提案を出す事ができ、職員間での検討を経て、必要であれば代表者に上申し決裁を得て運営に反映させている。職員の提案による手製の紙芝居は利用者に好評である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に対し資格取得を促し、向上心を持って働くことによりサービスの向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は、内・外研修に参加、また自己研鑽をし、知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流を図り情報を交換しサービスの向上するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人が困っていること、不安に思っていること、要望等に耳を傾け本人が安心できる関係づくりに努め充実した苑生活の実現に向けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等に相談し、どのような支援が必要としているか見極め、解決に向けた取り組みを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し尊敬の念を持ち、日常生活を共に過ごしながら喜怒哀楽を共有できる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切に、利用者が安心した生活が送れるよう、共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れず継続が出来るよう支援している。	地域や事業所の催しへの利用者・家族共々の参加や、家族の送迎による外出や外泊、電話や年賀状で知人との交流等、積極的な働きかけにより機会を逃さず馴染みの人や場との関係継続の支援を続けている。ゆりのき通信の定期的な送付もまたその一環である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活や個性を把握し、利用者同士が良好な関係づくりができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もこれまでの関係を大切に、必要に応じ助言や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの言動や表情を観察し、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は情報収集をし本人本位に検討しており、その人らしい生活ができるよう支援している。	言動や表情等から思いや意向の把握が困難な利用者についても、バックグラウンドシートや家族等からの情報をもとに職員間で「本人はどうか」との視点に立って検討を重ね、その人らしい生活の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートや家族からの情報にてこれまでの生活歴を把握し、本人の意に添った暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日々の変化を見逃さないよう職員間にて情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録に本人の状態や言葉など記録し、家族、必要な関係者の意見を反映しながら、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族等や、かかりつけ医、看護師等、必要な関係者と話し合い、職員間での検討を経てそれぞれの意見やアイデアを活かした介護計画を作成している。またモニタリングを通して状況を見定めながら、必要に応じて見直しを行う等現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を通し、全スタッフが情報を共有することで課題の実践や介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する本人の心身状態や家族の状況やニーズに柔軟に対応が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り、小学校の行事に参加したり、スーパーに出かけ、暮らしに楽しみや社会交流が絶つことがないよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の同意のもと、2週間毎の主治医の往診を基本に、相談や助言を受け、必要な時は適切な医療が受けられる体制を整えている。	外部の医療機関の受診は家族等によることが基本であるが、事情により職員が同伴する等、柔軟な対応を行っている。その際の情報提供を文書で行う事で、往診と同様に適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が健康チェックを行い、一人ひとりの状態を報告し助言をもらっている。必要時はDRに相談し指示を受け健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者と情報交換し利用者が安心して治療に専念できる関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のありかたについて、本人や家族の思いの変化を随時記録に残し、主治医と相談して、方針を共有しチームで支援に取り組んでいる。	契約時に加え、段階毎に事業所のできることを説明し、本人・家族等や、かかりつけ医、看護師等必要な関係者と話し合い、方針を共有しながらチームで支援しており、現時点で看取りが予想される事例がある。職員研修を実施し、看取りに備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し連絡体制を掲示している。職員は救急救命の講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、様々なケースの避難訓練を行い誘導方法、移動手段を身につけている。また訓練時は近隣住民の参加を得ている。	年2回マニュアルに基づき訓練を行い、内1回は消防の指導で実施している。地域の訓練にも参加し、避難時の状況の把握に努めると共に、災害時に必要となる物品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。	トイレ等への誘導に際してもさりげない言葉かけや対応を心がけ、利用者一人ひとりの尊厳を守る姿勢をすべての職員が保持している。又利用者の個人情報については、保管する場所等十分に注意を払って管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人が思いや希望を表出しやすい環境づくりを心がけ自己決定ができる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースにならないよう一人ひとりのペースを大切にし、その人らしく生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みや季節に合わせた服装が出来るよう、身だしなみやおしゃれを通し喜びが感じられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくり、買い物や片付けに参加してもらい、利用者と職員と一緒に行動することで食事が楽しい時間となるよう支援している。	食事は暮らしの中で貴重な位置にあると考え、楽しいものとなるよう、メニューづくりや、買い物、調理・盛りつけ、後片付け等の一連の作業を利用者が職員と一緒に行動している。自家菜園からの収穫物が食卓に上り盛り上がる等、食事を楽しむ工夫がみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食べ易い形態で食事を提供し、食事量、水分量は表にて把握している。主治医の指示により、経口栄養剤や点滴を施行しその確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し出来る限りトイレでの排泄を実践している。また失禁による不快感やショックを軽減するよう支援している。	利用者一人ひとりの力に応じての対応であり、リハビリパンツやパッドを用いる場合も固定化を避け常に見直しを行っている。トイレでの排泄を基本としており、自立した利用者を手本に、排泄の自立を目指す等の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬のみに頼らず、水分補給や飲食物の工夫や運動の働きかけ、腹部マッサージ等を取り入れ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	決まった日時を決めず本人の希望、声掛けにより入浴を促している。入浴時は個別ケアが実践できるため、楽しい雰囲気なかで本人の思いが引き出せるよう取り組みをしている。	利用者の状況によっては、負担の軽減を図るため、デイサービス備えつけの機械浴の実施も行っている。入浴の拒否もあるが、入浴後の「いい湯だったわ」との言葉を励みに、工夫をしながら介護職の本領を発揮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて、休息や午睡を取り入れている。安眠ができるよう居室内の環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬処方をファイル化し把握している。服薬による症状変化は記録に残し主治医に報告し指示をもらい、適切な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせ張り合いを感じてもらえる役割の提供に努め、日々の関わりの中で楽しみを感じてもらえるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添い可能な限り外出支援をしているが機会が減少しているため、増やしていけるよう努めている。	重度化が進む中でこそ外出の重要性が増すと認識のもと、機会をとらえては戸外に出かけており、普段は行けないような場所への外出も、行事に組み入れる等で、家族等の協力を得ながら実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの管理能力に合わせ所持してもらっている。また希望に応じ、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からいつでも電話が出来るようにしている。利用者と家族がやりとりが行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は居心地良く過ごせるよう不快や混乱をまねく刺激を排除するよう努めている。テラスでは季節の風を感じてもらい、また季節感を感じてもらえるよう風物を取り入れている。	共用空間の五感刺激には、全職員が日常的に注意を払っている。利用者は隣接する農園のみかんの木の変化や事業所敷地内の桜の開花等に季節を感じたり、新聞や折り込みチラシに日々の生活を実感しながら、ホールのソファや畳コーナーでゆったりと思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中、一人ひとりの落ち着ける場所の把握をしている。思い思いに過ごす中でお互いに居心地良く過ごせるよう距離感にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みのものを置き、安全かつ本人にとって居心地良く過ごせるよう工夫している。本人の状態に合わせ、本人、家族と相談し環境整備に努めている。	居室には目が届きにくいことから、転倒防止の為に家具の配置等に工夫がなされ、防災カーテンも備えている。本人の希望により、畳敷きの部屋もある。又居室は内側からの施錠も可能でプライバシーが守られ、利用者は居心地よく自分のペースで過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の危険の排除に努め、一人ひとりの力に合わせ安全な生活ができるよう環境整備に努めている。		